

## 別記様式

## 議 事 録

会議の名称	第2回 岩倉市公共施設再配置計画検討委員会
開催日時	平成30年7月9日(月) 9時30分から12時00分まで
開催場所	市役所7階 第1委員会室
出席者 (欠席委員・説明者)	出席委員：秀島委員長、木本副委員長、大野委員、伊藤委員、池山委員、水越委員、平松委員、井上委員 欠席委員：木村委員、増田委員 説明者：教育こども未来部長、都市整備課長、学校教育課長、子育て支援課長、都市整備課営繕グループ長及び係、学校教育課学校教育グループ長 コンサルタント：中央コンサルタンツ
会議の議題	(1) スケジュールについて (2) 公立保育園適正配置方針について (3) モデルケースについて
議事録の作成方法	<input type="checkbox"/> 要点筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他( )
会議に提出された資料の名称	資料1 公共施設再配置計画策定スケジュール 資料2 岩倉市公立保育園適正配置方針の考え方(案) 資料3 公共施設再配置計画のモデルケースについて
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	9人
その他の事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)	
1 開会	都市整備課長よりあいさつがされた。
2 議事	(1) スケジュールについて 資料1「公共施設再配置計画策定スケジュール」を基に事務局より説明。 委員長：前回の委員会で示されたスケジュールから大きな変更はあるか。 事務局：特に大きな変更はないが、モデルケースの検討を2回に分けて検討して頂くことを考えている。

(2) 公立保育園適正配置方針について

資料2「岩倉市公立保育園適正配置方針の考え方(案)」を基に事務局より説明

委員：保育需要の見込みはどのような予測によるものか。

事務局：人口減少の予測に加え、保育ニーズの増加量(30～35%)を想定している。

委員：小学校区別の保育サービスの必要量の見込みについて、良し悪しを評価しづらいため、民間保育所を含めて利用定員(認可定員)を整理して頂くことを要望する。

委員：西部保育園の請願の内容を教えてください。

事務局：6月議会における請願の内容は、以下の通りであり、アンケートの結果の開示意外は、継続審査としている。

- ・アンケート結果の開示
- ・西部保育園の維持存続
- ・公立保育園の現状維持
- ・支援が必要な子の保育を守る
- ・計画策定を広く市民に公開、周知する

委員：民間は保育をビジネスとして捉えている一方で、公立は最低の水準を維持する必要があるため、これらのバランスを確保することが重要である。

事務局：公立と私立で交流しながら、同じ質の保育を提供できるようにしたい。その中でも、公立は支援が必要な子を保育できるような、サービス水準を維持していくことが重要である。

委員：日本の少子高齢化、人口減少を踏まえた都市計画と連動させることはできないか。

事務局：市では、市街化区域と調整区域のバランスに配慮しながら、定住促進を図るような開発を進めているが、いずれにしても人口が劇的に増加することは見込んでいない。

委員長：施設は、増やすのは簡単であるが、減らすのは困難が伴う。なぜ計画の策定が必要といった部分をもう少し前段に書き込んだ方が良いと思われる。施設を減らすことができなければ、その他で代償せざるを得ないことをもっと訴えるべきであると考えられる。

事務局：本日の資料には記載していないが、前回の6月27日の懇話会では再配置の必要性を説明している。

(3) モデルケースについて

資料3「公共施設再配置計画のモデルケースについて」を基に事務局より説明

～モデルケース① 青少年宿泊研修施設希望の家の譲渡～

委員長：再配置によるメリットについて、民間活力の導入により市民ニーズに沿ったサービスが期待できるとあるが、行政では市民ニーズに沿うことができない

ように感じられる。

事務局：サウンディング調査を実施し、民間の提案を聞くことにより、より市民ニーズに沿った形で改善できれば良いと考えている。

委員：岩倉市内だけではなく、広く意見を求めるべきであると考えられる。そもそも安価で提供しなければ担い手がいないと思われる。

委員長：民間へ譲渡した場合、宿泊施設としては存続が保障されるのか。

事務局：現時点でも、宿泊するには機能が不十分であり、なかなか利用できない状況をつくってしまっている。サウンディング調査自体が未経験であり、今後どのような展開になるか想像に難しい。

委員：青少年の枠を取り、高齢施設や図書館にするなど、条件をどこまで緩和するかによって、興味を持つ民間が増え、それにより活性化が期待できると考えられる。

委員：譲渡先が見つからなければ、廃止するのか。

事務局：代替施設を提案し、廃止するしかないと考えている。

委員：それであれば、会議で議論することはなく、民間次第になる。

事務局：この場で決定する訳ではなく、指定管理を継続しながら状況を見つつ、条件を増やすなどして対応していく。計画書に廃止と表記するのは極力避けたいと考えている。

委員：譲渡先が見つからない場合は廃止と明記しないと、5年後に市民が困惑すると考えられる。

委員長：それでは、計画書に、状況によっては廃止という表記をすることで良いか。

全委員：問題なし。

委員：若いアーティストの育成、アトリエ、土掘り、木倒し体験など、本施設の個性を出さなければ、現実的に厳しいと思われる。

委員：廃止した場合は、施設は取壊しになるのか。

事務局：取壊しになると思われるが、土地の売却を含めて今後の検討課題である。

#### ～モデルケース② 市立体育館の廃止及び第二児童館の複合化～

副委員長：一刻も早く、老朽化した体育館を建替えて頂きたい。また、学校の敷地内にある岩倉神社は残るのか。

事務局：貯留槽を含めて、基本構想として全体の配置計画を検討しなければいけないと考えている。

委員：小学校と児童館の管理区分に問題はないか。また、プールの敷地を利用した配置であるが、プールはどうなるのか。

事務局：管理区分を区切るつもりはなく、共存させたいと考えている。また、プールは、民間施設の活用や統一した施設を建設するかは、今後の検討課題である。

委員：平成38年度までに解体まで行うのか。

事務局：その予定で考えている。平成 31 年度に基本構想、平成 32 年度に実施設計を行い、平成 33 年度末に建替えを予定している。

委員長：プールは、市全体の問題として認識しているのか。はっきりと方向性を示した方が良い。

事務局：現時点では、計画書に控えめに記載しているものの、先生の負担や学校のカリキュラムなど、先生と対話しながら決めていきたいと考えている。

副委員長：現段階でも、夜間や休日などの一般開放の際は、委託業者がうまく運営している。学校の中に児童館ができることにより、保健室などの増える負担と通学のなどの減る負担とのバランスが必要である。

～モデルケース③ 北部保育園・仙なら保育園の統合及び子ども発達支援施設あゆみの家との統合～

委員：待機児童の数を見える化し、計画に盛り込んだほうが良いのではないかと。

事務局：実施設計の段階では、当然見える化して検討していきたい。

委員：購入する土地には目星があるか。

事務局：カネスエの用地など、場所が必然的に限定される。

委員：75%は車による送迎とのことであるが、実施設計の際は、障害者や残りの方々の利用にも配慮した計画としてほしい。

事務局：駐車場の確保は、利用する方々にとっては相反する内容になるが、コンパクトな岩倉の利点を活かして計画していきたい。

～モデルケース④ 岩倉東小学校の減築～

委員：減築して採算を取ることは賛成であるが、それ以外にも、国際的な特徴を活かすなど、保育園と同じようにバランスを考えることも重要である。

事務局：そのため、減築だけではなく市民開放する計画案としている。URの動向が不透明であるため、南館を全て取壊すのではなく減築としている。

委員：通学区域の変更は生じないか。

事務局：関係ないと考えている。

委員：全てのモデルケースを通して、削減率はどれほどか。

事務局：次回のモデルケースの議論の際に、合わせて数字を整理する。

委員：計画自体は良いと思うが、学校側の意見はどうか。視察したグルッポ藤東とは違い、一般利用者と児童が混合することになる。

副委員長：現場としては、負担が増えることのないようにして頂きたい。

委員：セコムなどのセキュリティ対策は施されているか。

事務局：現時点でセコムを導入している。

◆その他

事務局：保育園について、もう少し意見を頂きたい。

委員：私立と公立は、どちらの人気の高いのか。

事務局：懇話会の中で話を聞いている分には、大体半数と思われる。市で入園調整をしており、公私の分けはないが、若干公立の方が人気と思われる。

委員：保育園の延長や駐車場の確保といった要望はあるか。

事務局：延長のニーズはあるが保育士が不足しているため、対応できていない。また、駐車場については、懇話会の中で色々な意見があるが、今後の調整課題である。

委員：園児は車から降ろすだけではなく、先生等との色々なやり取りがあるなど、想像以上に時間がかかるものである。他市では、テレビやメールで事前に調整し、伝言ミスを防止する取組みを行っている。ドライブスルーを導入するのも良いのではないか。

委員長：代替地、管理人および駐車場など、数字に表示されないことを整理しておかなければ、計画が成立しない場合がある。今後の引継ぎのためにも、記録として残しておくことが必要である。